

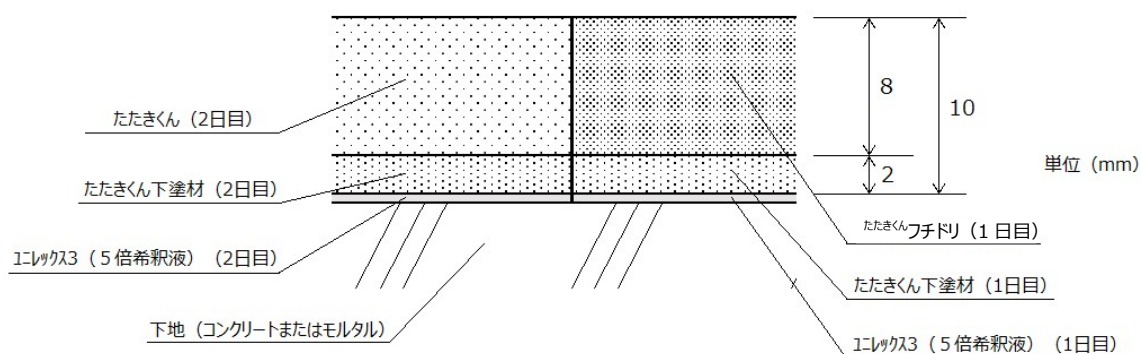
たたきくん・フチドリ 施工マニュアル

施工前の注意点

- 車の乗り入れる場所は、割れ、削れの恐れがありますので、使用しないで下さい。
- 常時、水掛かりがある場所は、コケが生えてくる恐れがあります。
- 椅子等で同じ場所ばかり引きずると、削れる恐れがあります。
- 油汚れ等の染み込む汚れは、除去しにくくなる場合があります。
- 気温が5℃以下及び5℃以下になりそうな時は、施工を行わないで下さい。
- 下地を十分に乾燥させた後、施工を行って下さい。

コンクリート 及びモルタル以外の下地には、施工を行わないでください。

フチドリ 施工断面図



図：たたきくん・デコモルタル（段鼻）施工断面図

たたきくん下塗材（塗厚：2mm）＋たたきくん・フチドリ（塗厚：8mm），トータルで10mm厚の仕上がりとなります。

1. 下地処理

① コンクリート下地への施工

- コンクリート打設後、1週間以上養生して下さい。養生期間が短いと、たたきくん・フチドリ施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。
- 施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行って下さい。
- レイタンスや油類等が表面に付着している場合は、高圧洗浄機などを使用してこれを除去し、清掃を行って下さい。
- コンクリートの極端な凸部や脆弱部分は、サンダー等で除去し、必要なら補強を施して下さい。
- 極端な段違い部や凹部は、ポリマーセメントモルタル（ベース#40 など）を充填して補修して下さい。
- 鉄筋が見えている場合には、必ず錆止め剤を施して下さい。
- 大きなクラックは、Vカットしてポリマーセメントモルタル（ベース#40 など）を充填して補修して下さい。

② モルタル下地への施工

- たたきくん下塗材をよく密着させるため、下地のモルタルは木ゴテで表面を仕上げして下さい。
- モルタル塗り付け後、1週間以上養生して下さい。養生期間が短いと、たたきくん施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。
- 施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行って下さい。

段鼻・蹴上げのフチドリ施工

1. 下地の清掃

塵や粉塵などは、掃除機やブロアーなどで十分に除去してください。

2. 型枠の取付け

フチドリ施工部分に木枠などを設置してください。

3. 吸水調整

左官刷毛などを使用し、フチドリ施工部分にユニレックス3の5倍希釈液にて、吸水調整を行なって下さい。

吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから、次の工程に進んで下さい。
目安としては、4時間以上です（気象条件により異なります）。

4. たたきくん下塗材の塗付

① たたきくん下塗材の混練

たたきくん下塗材に規定量の清水（4.5 L/袋）を加え、ハンドミキサーなどを使用し十分に混練してください（標準施工面積：約1.0㎡）。

② たたきくん下塗材の塗付

吸水調整の完了した下地に、たたきくん下塗材を十分にコテ圧をかけてしごき塗りをを行い、追っかけてすぐに、2mm程度の厚みまで塗り付けて下さい。

5. フチドリの塗付

① フチドリの混練

フチドリに規定量の清水（1.3～1.5 L/袋）を加え、ハンドミキサーなどを使用し十分に混練してください（標準施工面積：約0.5㎡）。

- ハンドミキサーはアルミ製のものは使用しないでください。
- フチドリは練り始めは重く感じられますが、徐々に柔らかくなっていきますので、加水しすぎないように注意してください。
- 垂直面への施工がある場合は、若干硬めで混練されると施工しやすくなります。
- 同一現場において、練り水量は統一させてください。色ムラなどの原因となります。
- 練り水量が多いと強度低下やひび割れなどの原因となりますので、規定範囲以上の水量で混練しないでください（施工し難しくなります）。また、練り足しや加水しての練り返しは絶対に行わないでください。

② フチドリの塗付

たたきくん下塗材を塗り付け後、たたきくん下塗材が乾ききらないうちに追っかけて、フチドリを所定の厚み（8mm程度）まで塗り付け、金ゴテで平滑に仕上げてください。

6. 養生

フチドリ施工後に降雨雪のおそれがある場合、または通風・日照の激しいときはシート養生等の保護養生を行って下さい。その際、シートなどが直接フチドリに触れないように注意してください。

- フチドリが完全に硬化するまで、力を加えたり上に乗ったりしないでください。
- 次工程は翌日以降、フチドリが硬化してから進んでください。

踏み面のたたきくん施工

1. 型枠の取外し

フチドリ施工時に設置した木枠などを取り外してください。

状況に応じて適切に伸縮目地を設置してください（設置間隔は約 3 mを目安に、目地で囲まれた部分が約 10 m²以内となるようにしてください）。また、コンクリートのひび割れ誘発目地の位置に設けるようにしてください。

2. 下地の清掃

塵や粉塵などは、掃除機やブロアーなどで十分に除去してください。

3. フチドリ施工部分の養生

フチドリを施工した部分がたたきくんなどで汚れないように、マスキングなどで養生してください。

4. 吸水調整

左官刷毛などを使用し、たたきくん施工部分にユニレックス 3 の 5 倍希釈液にて、吸水調整を行なって下さい。

5. たたきくん下塗材の塗付

① たたきくん下塗材の混練

たたきくん下塗材に規定量の清水（4.5 L/袋）を加え、ハンドミキサーなどを使用し十分に混練してください（標準施工面積：約 10 m²）。




② たたきくん下塗材の塗付

吸水調整の完了した下地に、たたきくん下塗材を十分にコテ圧をかけてしごき塗りを行い、追っかけてすぐに、2 mm程度の厚みまで塗り付けて下さい。

6. たたきくんの混練

- たたきくんは、表 1 に示す配合にしたがって、袋単位（15 kg / 袋）で計量し、混練するようにして下さい。
- 練り混ぜ水は、きれいな水道水とし、台秤または計量カップを使用して計量して下さい。

表 1 たたきくんの標準配合

たたきくん	練り混ぜ水（水道水）	たたきくん専用硬化液
		
1袋（15 kg）	1.5 L （1.4～1.6 Lの範囲で調整）	0.2 kg

- たたきくんは、練り混ぜミキサーの違いにより、練り上がり性状が変わりますので、練り混ぜ水は1.4～1.6 Lの範囲で調整して下さい。施工軟度の目安としては、バサモルタルより少し軟らかい程度です。
- 同一現場においての練り水は、はじめに決めた水量で継続して計量して下さい。施工の途中で練り水量が変わると、色ムラなどの原因となります。
- 練り水量が多いと、耐摩耗性の低下やひび割れなどの原因となります。また、仕上がりまでの時間が長くなりますので、練り水量は厳守して下さい。

I. ハンドミキサーで混練する場合



- 水道水（約 1.4 L / 袋）とたたきくん専用硬化液（0.2 kg / 袋）を、予めハンドミキサー等で軽く混ぜ合わせておいて下さい。時間は、5～10秒程度です。



- 硬化液は全て使い切るようにして下さい。



- 硬化液を入れた練り水に、たたきくんを徐々に投入して、練りダマができないように約 2 分間混練して下さい。
- 軟度調整が必要ならば、残りの練り水（0.1～0.2 L / 袋）を徐々に加えて、適度な硬さに調整して下さい。目安としては、バサモルタルより少し柔らかい程度です。
- 5分程度練り置き後、練り返して使用して下さい。
- 練り置き時間は 20 分以内とし、水を入れての練り返しや練り足しは絶対に避けて下さい。

- ハンドミキサーは、アルミ製のものは使用しないで下さい。
- 練り上がったたたきくんは、直射日光を避け、シート等を掛け水分の蒸発を防いで下さい。

II. モルタルミキサー（タライ型）で混練する場合



・水道水（約 1.4 L / 袋）とたたきくん専用硬化液（0.2 kg / 袋）を、予めバケツ等でレンガゴテやひしゃく等で軽く混ぜ合わせておいて下さい。



※硬化液は全て使い切るようにして下さい。



- モルタルミキサーでたたきくんを攪拌しながら、硬化液を入れた練り水を徐々に投入して、練りダマができないように混練して下さい。
- モルタルミキサーの隅や攪拌羽根の周辺に混練不足のたたきくんが残っている場合があるため、一度ミキサーを止め、レンガゴテなどでかき落としを行い、再度混練して下さい。
- 軟度調整が必要ならば、残りの練り水（0.1～0.2 L / 袋）を徐々に加え、適度な硬さに調整して下さい。目安としては、バサモルタルより少し柔らかい程度です。
- 5分程度練り置き後、練り返して使用して下さい。
- 練り置き時間は 20 分以内とし、水を入れての練り返しや練り足しは絶対に避けて下さい。

- 混練時間が長くなると、たたきくんが必要以上に軟らかくなりますので、混練時間はトータルで 2～3 分程度として下さい。
- 練り上がったたたきくんは、直射日光を避け、シート等を掛け水分の蒸発を防いで下さい。

7. たたきくんの塗付



- たたきくん下塗材を塗り付け後、たたきくん下塗材が乾きらないうちに追っかけて、たたきくんを所定の厚み（8mm程度）まで十分にコテ圧を掛けて金ゴテで平滑に塗り付けて下さい。

次工程以降は、直接仕上げ面には乗らず、スポンジ下駄を使用するか敷板等の上に乗って施工して下さい。
水を使用するバケツについても敷板の上に載せ、仕上げ面に水がかからないように注意して下さい。

8. 定木ずり



- たたきくん塗り付け後、定木ずりを行い、平滑に整え、木ゴテでよくもみ込んで下さい。

9. 丸石散布・埋め込み

9-1 丸石の散布



- たたきくに湿り気があるうちに、丸石パック(0.2kg)を散布して下さい。
- 丸石の散布量は、お好みにより調整して下さい。
- たたきくんが乾燥すると、丸石が馴染み難いので注意して下さい。

9-2 丸石の埋め込み



- 金ゴテを使用して丸石を埋め込み、軽く頭はりを行って下さい。
- 丸石がたたきこんで、少し被る程度まで埋め込んで下さい。
- 丸石が馴染みにくくなった場合は、水を含ませてかたく絞ったスポンジで、表面を軽くなでて、たたきこんで丸石を馴染ませて下さい。

10. スポンジ拭き取り（1回目）



- たたきこんの表面の湿り気がなくなってきたら、水を含ませてかたく絞ったスポンジで円を描くようにして表面のノロ分を拭き取って下さい。
- 拭き取り具合で表面の砂目の出し方を調整して下さい。

・スポンジ拭き取り時の水分が多いと、色ムラのおそれがありますのでご注意下さい。

・使用するスポンジは、出来るだけ新しく凹凸が少なく平滑な物を使用して下さい。凹凸が大きく粗いスポンジを使用すると仕上がりが粗くなるおそれがあります。

11. 砂ばらい（1回目）



- 最後に拭き上げた時点から 10 分程度経過後、表面に残った砂くずを乾いた左官刷毛やナイロン製で毛先にややこしのあるほうきで、軽く取り除いて下さい。
- 強く掃くと表面が削れてしまいますので、注意して下さい。

12. スポンジ拭き取り（2回目：仕上げ拭き）



- たたきんの表面の砂くずが乾燥してきたら（砂くずの色が白っぽくなってきます）、水を含ませてかたく絞ったスポンジで同一方向にきれいに拭き取り、砂目を出して仕上げして下さい。

※ スポンジで同一方向に拭き取らないと、光の当たり具合によって見栄えが変わるおそれがあります。

- ・スポンジ拭き取り時の水分が多いと、色ムラのおそれがありますのでご注意ください。
- ・仕上げ拭きに使用するスポンジの水は、清水を使用して下さい。
- ・汚れた水を使用すると、色ムラの恐れがあります。
- ・拭き取りムラのないように十分に注意して下さい。

13. 砂ばらい（2回目：仕上げ）

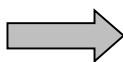


- 表面の砂くずがある程度乾いたら、乾いた左官刷毛等を使用して表面の砂くずを掃いきれいにして下さい。さらに、翌日にも砂掃いを行って下さい。

巾木部分の清掃に、散り刷毛に水をつけて清掃しないで下さい。清掃に使った水が、たたきんの際で白く変色する可能性がありますので、予め、養生しておいて下さい。



砂掃い前



砂掃い後

14. 養生

- たたきくん施工後に降雨雪のおそれがある場合、または、通風・日照の激しいときはシート養生等の保護養生を行って下さい。
- シート等が直接たたきくに触れないように注意して下さい。
- たたきくん施工後、歩行や作業が行われる場合は、敷板等で養生し局部的に力が加わらないようにして下さい。
- 歩行や作業終了後は、ただちに養生を取り除いて下さい。養生したままですと、色ムラのおそれになります。

15. 浸透性硬化剤（P-VII）の塗布

① 事前確認

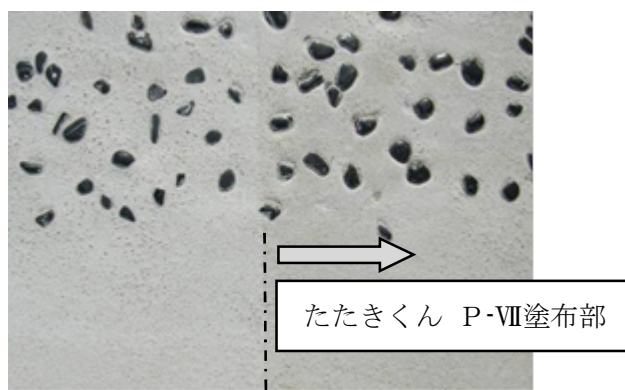
- P-VII塗布前に、たたきくんが乾燥しているかを確認してください。乾燥していない状態で P-VIIを塗布すると、変色や耐摩耗性の低下につながる可能性があります。目安としては、たたきくん施工 3 日以上経過後、P-VIIを塗布するようにして下さい。ただし、P-VII塗布までの時間は、気象条件などにより異なります。
- 乾いた左官刷毛などを使用して、塗布面の砂くずを掃い、きれいにして下さい。

② フチドリ・たたきくんへ左官刷毛などで P-VIIを塗付

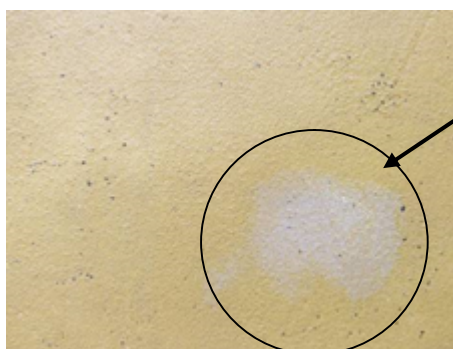
- P-VIIは希釈せず原液のまま使用して下さい。
- たたきくん部分はムラなく左官刷毛等で、P-VIIが溜まるくらいまで、しっかりと塗布して下さい(標準塗布量 300 g / m²)。
- フチドリはたたきくんより P-VIIの吸い込みが少ないので、液だれが起きないように塗布して下さい。
- 10分以内に P-VIIがまだ吸い込むような箇所があれば、再度塗布して下さい。
- ローラー等で塗布すると、標準塗布量以下になるおそれがありますので、ご注意下さい。
- P-VIIの塗布量が少ないと、色ムラになるおそれがありますので、ご注意下さい。
- P-VIIを2回塗布しないで下さい。
- P-VII塗布後、最低3日以上は降雨などの水掛かりに注意して養生して下さい。なお、たたきくに直接触れないように養生して下さい。P-VIIが乾燥する前に水掛かりがあると変色する可能性があります。養生期間は、気象条件などにより異なります。



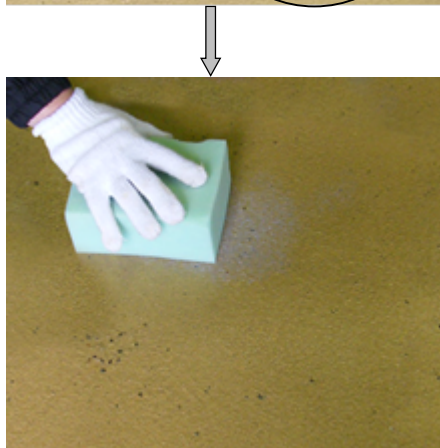
※ P-VIIを塗布することで、多少塗れ色になります。



【P-VII塗布における注意点】



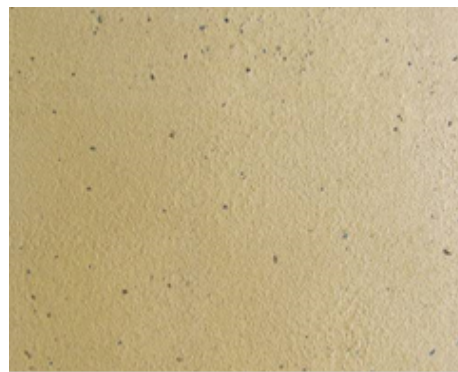
P-VII塗布から20分程度経過後、P-VIIが残ったままですと、変色する可能性があります。



乾いたスポンジ等を使用して、P-VIIを吸い取って下さい。

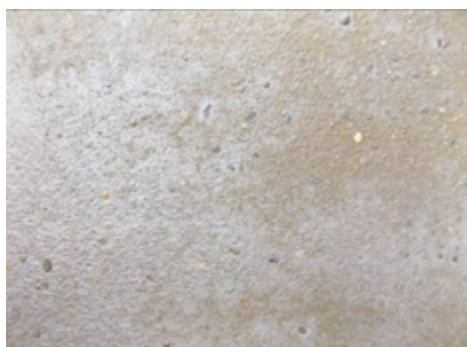


【P-VII 塗布直後】



【乾燥後】

× 悪い例



たたきくの施工後3日以内にP-VIIを塗布すると、降雨後、白く変色することがあります。
したがって、必ずたたきく施工3日以上経過後にP-VIIを塗布するようにして下さい。
たたきく表面が乾燥しているようにみえても、内部が乾燥していない場合がありますので、ご注意下さい。

[注意事項]

- 気温が5℃以下及び5℃以下になりそうな時は原則として施工を行わないで下さい。
- 特に湿気の多い場所への施工は避けて下さい。車が乗り入れる場所への施工は避けて下さい。
- たたきくんには水や専用硬化液以外のものを混ぜないで下さい。
- たたきくん下塗材・フチドリには水以外のものを混ぜないで下さい。
- たたきくん・フチドリ及びたたきくん下塗材はアルカリ性のためチリ廻りや幅木、サッシ等の養生は確実に行って下さい（変色の恐れがあります）。
- 色違いや段差ができないように、縁を切らずに連続して施工して下さい。
- たたきくん・フチドリ及びたたきくん下塗材の保管は、直射日光、湿気を避け、パレット等で地面から離して保管して下さい。
- たたきくん・フチドリは天然素材を使用しているため施工時の季節や天候、製造ロット等の条件により色合いが多少異なる場合があります。



二瀬窯業株式会社

〒820-0044 福岡県飯塚市横田669

本社・工場：0948-22-0447 名古屋営業所：052-509-2485

関東工場：0438-30-7372 大阪営業所：06-6583-3310

東京営業所：03-6453-6685 福岡営業所：0948-22-0447